

平成27年度第1回松前町総合教育会議 議事録

1 日時 平成27年11月30日(月)午後3時30分～午後5時8分

2 場所 松前町庁舎 4階 401会議室

3 出席者構成員

(構成員)	町長	白石 勝也
	教育長	本馬 毅
	教育長職務代行者	池内 睦夫
	教育委員	坪内 雅子
	教育委員	玉野 聖子
	教育委員	渡部 敏夫

(構成員以外の出席者)

事務局長 岡本 明、総務部長 金子 知芳、学校教育課長 合田 光隆、
社会教育課長 富田 徹、総務課企画調整係長 平村 展章

(傍聴者) 1名

4 議事

(1) 松前町教育大綱(案)について

5 議事内容

○総務課

定刻がまいりましたので、只今から、平成27年度第1回松前町総合教育会議を開催いたします。地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4の規定により、総合教育会議は、町長が召集することになっており、本日の会議となりました。

なお、ここからの進行は教育委員会が行います。

○事務局長

これより、教育委員会の方で会議を進めます。なお、会議は原則公開となっております。本日は、報道関係者1名が傍聴を希望しており、別室で待機しております。先に決定した「松前町総合教育会議傍聴要領」により取り扱いますが、入室並びに傍聴を許可したいと思います。よろしいでしょうか。併せて、写真撮影を許可してよろしいでしょうか。最初の冒頭だけ許可するという事でよろしいでしょうか。

ー 異議なしの声ありー

○事務局長

それでは、傍聴人を入室させます。

(傍聴人が入室し、着席する。)

○事務局長

それでは、会次第によりまして、白石町長があいさつを申し上げます。

○白石町長

これまで何度か議論をしてきまして、今回、大綱の案が正式にできました。改めて、皆さんから意見を聴いて、できれば年明けぐらいには決定していただければいいかなと思います。

ご存知のように、新しい町長も決まりましたので、私の任期が10日までですが、それに併せてやる必要はないと思いますし、次の町長に引き継ぎますし、また、委員のみなさんはかわらない訳ですから、町長が代わるだけですから、こういう風な考えだから差し戻す事とかでは無いと思いますので、そんな中で、しっかり理解をして年度内に大綱を完成させてほしいというように言うておきます。ですから、10日までに決定をしなければならないという事ではありませので、今日は、皆さんで全体を見直していき、意見等があれば修正していき、年内くらいに新町長を迎えて、会を行って、年明けくらいに決める。松前というのは義農作兵衛翁の生き様というか、お百姓さんの生き方が、松前町の住民の模範となっている事は事実となっている。学校で教えるときには、それを現代版にしてわかりやすくして、小さい頃から学び合う事が大切であると思う。

教育の町を、改めてみんなが、教育に関係する人だけでなく、住民が松前町とは教育の町なんだと教育を大事にして、特に子どもたちからしっかりとした教育を、大人も生涯学習を通して、学ぶこと、教え合うこと、学び合うことの大切さを、一本筋として通して欲しいなと気がします。

教育の町だからこれをしますというのは非常に難しいが、すばらしい、義農作兵衛翁というお百姓さんの生き様、それから、現代になったら教育の町を宣言した、その松前町のあるべき姿。こういうものが大綱のバックボーンというか、なんかに位置すると、たとえその言葉でなくても、松前町は教育に力を入れて、これから益々良い町になるんだと分かるのかなと感じはします。

ただ、これは考え方だがこれを文章にすることは難しい、話をすればできるが、文言として入れなくてもこれをいろんなとこに説明する時に、大綱をつくった基になるのは、義農作兵衛の生きてきた姿であり、教育の町を宣言した松前町の歩むべきこれからの方向じゃないかと勘案して、これをつくったと説明してもらえば良いんじゃないかと思います。

○事務局長

続きまして議題に入りますが、議題1の総合教育会議設置要綱案について、事務局からご説明いたします。この設置要綱案は、本日の総合教育会議開催までに開いた、町長と教育委員会の懇談会で説明いたしましたので、詳しい説明は省略します。

会議の所掌事務は、第2条にうたっており、第1号で大綱の策定を第2号で重点的に講ずべき施策を、第3号で児童・生徒等の生命若しくは身体等に係る、緊急時に講ずべき措置を会議の対象としております。

また、これまでの設置要綱案を一部変更し、第7条の議事録に係る条文で、新たに第2項を設け、議事録は、議長が会議において指名する構成員2名が署名する。文言を追加しております。

ご意見・ご質問はありませんか。

ー 異議なしの声ありー

特に意見もないようですから、設置要綱第4条第1項により町長が議長となります。

これからの会の進行は、白石町長にお願いします。

○白石町長

議長を務めさせていただきます。よろしくお願いします。

設置要綱第7条第2項の規定により、議事録署名する構成員に、池内委員さんと坪内委員さんの2名を指名します。

次に、議題2に入ります。事務局の説明をお願いします。

○学校教育課長

松前町教育大綱について、説明いたします。お手元の資料大綱（案）をご覧ください。

（資料により読み上げのため、記載省略）

○町長

「自立」のところは、これを読むとね、ちょっと、どっちにかかっているのかわからない。主語が、一人ひとりの子どもが実行力を身につけて瞳を輝かせ未来を担えるように「生きる力」を育みます。の主語はなにか。

○教育長

「学校は、」です。冒頭の家庭や学校で安心してから環境を整えまでは、幼児期から安心して子育てができるような環境も含めています。

○町長

一人ひとりの子どもが、家庭や学校で安心して伸び伸び成長できる環境を整えます。というのは分かる、その子どもたちが日常生活や学習を通して、自分のよさを理解し、思いやりや正しい判断力、将来を切り開いていく実行力などを身につけて瞳を輝かせ未来を担えるよう生きる力を育みます……。一つの文書にすると、一人ひとりの前が長過ぎる。だから、家庭や学校での環境を整えてやって、一人ひとりの子どもたちが……。育みます。としてみてはどうか。一つの文書にしているから分かりにくい、二つ、三つにすると分かりやすい。

○事務局長

また、を入れます。

ー 二つの文書にした方が分かりやすいとの声あり ー

○教育長

前文は、制度とか環境の条件付けであって、その下が子どもたちがどうなって欲しいという思いですから。

○池内委員

一人ひとりを、頭にもってきて環境を整えますで一旦切って、次に入ったほうが分かりやすい。

○町長

頭に主語をもってくれば、またで良いと思う。

また、「生涯学習の推進」のところで、松前町誌は昭和54年に発行し、以来35年が経過しました、のような気がします……。文法的に確認をしておいてください。

あと、どうでしょうか。

<学校教育の充実>

○教育長

前にもご指摘がありましたが、学校教育の充実のところで、保護者の方が読んだ時に学力

向上推進委員会や学習到達度テストの表現は、何かわかりにくいと思いますが。

○町長

学校教育だから、今の学校教育のはなしでないと、ここに一般論をもってきてもおかしいと思う。

○坪内委員

このテストは、松前町が独自に実施していると思いますので、これは、松前町の特色あるものなので、表記をどうするのか、検討する必要があるかもしれませんが。

○町長

学力向上推進委員会というのは、どこにもあるのか。

○教育長

各学校に学力向上推進委員会というのがあって、それを年に2回程度やっている。

○町長

松前町だけではなく、どこの町にでもあるのか。

○教育長

あります。

○町長

松前町が独自に学力向上推進委員会をつくっているという訳ではないのですね。

○事務局長

これは、他の市町村でも教育委員会ごとに学力向上推進委員会を設置しなさいとなっています。

○町長

学力向上推進委員会は、どこにもある。坪内委員さんが言われた、児童・生徒学習到達度テストは松前町独自のものなのか。

○坪内委員

他の市町はどうしているかわかりませんが、特別に費用、予算を組んで行っているもので、これは市販のものを使用している。分析も業者に依頼してやってくれる。一人ひとりの実態を把握することができるし、それを保護者にもちゃんと説明してお返しして、また先生方もクラスの実態とか、子ども一人一人の事を把握して指導にあたっている。全国の学力テスト以前に、既に取り組んでいるということ。

○町長

松前町独自のものではないのか。

○坪内委員

独自で、先生たちが作ったものではない。

○教育長

他の市や町が予算をかけて、名前は分かりませんが同様のテストをしているところがあります。

○町長

松前町独自のものでないのであれば、毎年、実施する学力向上推進委員会の・・・、学力推進委員会をやるのか。

○事務局長

そうです。各学校に学力向上推進主任がいて、各学校でも、学力向上の会をもっているのですが、教育委員会で町内6校をとりまとめて、松前町全体でどう取組んだらいいのかというのを松前町学力向上推進委員会で協議する会の位置づけとなっています。

○渡部委員

テストするから、会を設けたというのではないんですね。

○事務局長

そういうことではないです。

○渡部委員

テストとこれ（学力向上推進委員会）が一緒のものではないのか。

○事務局長

学力向上に資することを検討するので、材料として全国学力テストとの比較や分析を会の中で話し合いはします。

○教育長

分析もあるが、もう一つは各学校でどうやれば、この二つの学力が向上するか、授業をどう変えていったら良いのか、あるいは家庭学習の習慣づけにはどうやれば良いかなどを話し合う。

○池内委員

話し合っ、それを各学校の代表者が集まって自分の学校ではこのようにやっていますよという意見交換、情報交換をして、町全体としてはこのところに力を入れていきたいと思います。このようにやっている訳ですね。今年度は、やっていないんですね。

○事務局長

今年度は取組むようにはならなかったです。

○渡部委員

テストは、町単で導入しているものですね。これは、町独自だから良いと思う。これを有効に活かすのは委員会の活用に結びついてくるのかと思います。情報提起することは良いと思う。

○坪内委員

校内の学力向上推進委員会等で、いかに子どもたちの学力を診断して、結果を広報で保護者にも地域にも知らせます。必ず毎年実施しています。何がどう向上したのか、どこに課題があるのか、本当に細かく分析して公開します。小学校ではしていると思います。

○町長

そうすると学力向上推進委員会は、学校にあるのか教育委員会にあるのか。

○事務局長

これは、教育委員会にあります。校内学力向上推進委員会は各学校にあります。

○教育長

学校に、学力向上推進主任がいて、学力テストとかこのテストの結果の分析や、頂いたものを基にして、そのテストの為にというよりも、どう授業を変えて子どもたちの学力を高めていくか、そのためにうちの学校ではこうして行きますというのが、各小中学校の学力向上

推進委員会です。

○池内委員

私の頃には無かったが、学力向上推進主任というのが数年前からおかれたのですか。その人を中心に各校内で学力向上について話し合いをしているわけですね。

○町長

そうした方が分かりやすい。松前町学力向上推進委員会というと何か漠然としていて……。各学校にある学力向上推進委員会を開催する。委員会であるから開くのは当たり前なのではないのか。

○池内委員

松前町学力向上推進委員会をもつための前提として、各学校での学力向上推進会議みたいなものがもたれているわけですね、もってなかったら松前町で開く意味が無い。学校でもっているのだから、さっき言ったように、もちよって過去の良いところを取り入れたりしたのが、松前町学力向上推進委員会という事になってくるのだと思うから、この表現で特に違和感はない。

○町長

松前町と言うと、町全体でまとめている感があるでしょ、ここで言う松前町は、松前町教育委員会ということでしょ。

○事務局長

委員会のメンバーには、各学校の校長、学力向上推進主任と教育委員会事務局が入っています。

○教育長

各学校の学力向上推進委員会の内容を把握したり、テストの支援等を実施します。

○池内委員

内容を把握するのが、松前町学力向上推進委員会ではないんですか。

○町長

各学校に学力向上推進委員がいるということか。

○教育長

主任がいます。

○町長

主任さんなら1人でしょ、また、学年ごとにいるのか。

○教育長

各学校に1人です。

○町長

学校に1人しかいないのに、会を開くとしたらどうするのか。推進委員さんが、先生を集めて開くのか。

○教育長

それは、研修の職員会の中で、今日は学力について話し合います。

○町長

このような推進委員会は、委員が集まって会を開くのではないのか。学力を向上させる会

なのでは。学力向上推進委員会は、委員さんの会か、学力を推進するために先生方が集まる会議なのか、どっちだね。

○教育長

学校は、全員職員会の中で、町のは各学校の代表者で行う。

○池内委員

会をもつ目的は、あくまでも学力を向上させるための会議です。

○町長

学校の学力推進委員会を活発に開催し、とか言ったほうが分かりやすい。まとめてやる会なのか町全体で、学校で、例えば学期ごとに学力向上推進委員会を先生方が集まってやるのか。教育委員会が全部の学校を招集しているのか。

○事務局長

各学校はそれぞれに開催している。現年度のテストの結果に基づいて次年度どうするか時期をみて学校内の会に図っている。

○町長

活発にやらせるのは、学校ごとにやらせばいいでしょ。教育委員会が委員を招集して何回も会を開かなくてもいい訳でしょ。

○事務局長

学校でやる部分は、学校単体で取組むべきことで、教育委員会としては、6校併せて共通的に取組んだらどうかなどを、松前町学力向上推進委員会で行う。

○町長

松前町学力向上推進委員会の開催となると、松前町に学力向上推進委員会や委員があるという事ですね。

○岡本局長

あります。

○町長

それはやらなくても良いのか。学力向上推進委員会は学校ごとにやるのではないのか。

○坪内委員

学校ごとにも開いていますが、それぞれの学校の実態をもちよって、また実践をもちよって町でまとめて報告し合い、課題があればその課題についてみんなで話し合い、良い方向に取組むという意思統一を図るのではないのでしょうか。

リーダーシップは教育委員会がとる。その会の委員長が池内委員さんです。

○池内委員

町長さんが言われるのはもっともです。各学校でやっておる事なんです、松前町の教育大綱として、どう表現するか、表現の問題ではありますが。

○町長

松前町学力向上推進委員会を開催するのは当たり前のことでしょ、委員会があるのだから開かないと何の意味も無い。その開きますというのは、あまりにも主要施策としては開かない委員会なんてないのだから、委員会を活発化するとかでそれで良いと思うが。

大綱というふうにこっちも大上段に構える以上は、学力向上推進委員会を開く事は刺激し

合うのではないのか、だから、学力向上推進委員会を活発に開催するとか、児童・生徒学習到達度テストも毎年やっているのでしょ。

○池内委員

この会を持つという事は、各学校で十分話し合いをしておることが前提になっておる訳ですから、たとえば、松前町学力向上推進委員会の効果的な開催やとか、町長さんが言われている部分を包含されているように考えても良いのではないか。

○町長

こういった主要施策で、学力推進委員会を開催する、児童・生徒学習到達度テストを実施する、今やっていることをやるだけのことじゃないのか、池内委員が言われたように、活発化させて、確かな学力の向上を上げていくという事でしょ。

○渡部委員

やはり、活性化させる。悪く言えば形骸化しているものを、小さくても中身の問題であって、そうすると活性化させていく。テストは実施、これは町単独、もっと上目指して、例えば充実とすれば、前向きになっていくのでは。

○坪内委員

委員会も形骸化というのではなく、立ち上げて間もないので、スタートしたばかりだから、より一層これから充実させていこうという事ですよね。

○町長

ちょっとその部分を修正してみてください。

<生涯学習の推進>

○町長

各ライフステージに応じて町民の学習志向も異なることから、自らが学習を企画する町民企画講座とは具体的に何をやっているのか。

○社会教育課長

これは、自分たちが企画したものを持ち込んで教室をやる。町から補助金を出して自主的に事業を実施してもらった講座です。

○町長

町民というのは、講座をやると手を上げた人

○社会教育課長

企画を持ち込んで、町で審査します。

○町長

町民というのは、どういう人が手を上げてくるのか

○社会教育課長

例えば、歴史に詳しい人がいろんなところを廻ってみたいと史跡を学習してみたいという人などが、公募するので、応募してもらい何人かで講座を実施する。

○池内委員

神崎塾などが、これにあたるのですかね。

○町長

イメージとして、自らが学習を企画することのできる町民企画講座、例えば、今言ったように10人や15人がこんな事をやりたいと町に申請して、町が認めれば、それに対して補助金を出しましょうと言う事で、誰でもということにはならないし、1人じゃしょうがない。

○社会教育課長

企画を提出してもらい、講座内容の審査を行い決定しております。○池内委員

これは、今はいくつかの講座があるんですか

○社会教育課長

予定は10でしたが、7講座を実施しています。

○町長

1つの講座は何人くらいか、また、何人になったら講座として認めるとかがあるのか。

○社会教育課長

何人以上とかは無いので、ある程度の人数がいないと・・・。

○町長

各地区で開催されている青少年育成協議会はどのような事をしているのか

○社会教育課長

子どもや保護者を対象に、DVDをみてもらっている。

○町長

青少年育成協議会とは、こういった組織なのか

○教育長

補導委員、PTA、大字役員、学校生徒指導の教諭などで構成しています。取りあげる内容としては、教諭が夏休み中に児童生徒らに周知した内容を関係者で共有したりしている。

○町長

このところのタイトルは、生涯学習の推進でしょ、生涯学習であるから基本的に子どもたちの学力とは関係ないと思う、どっちかという生涯学習は、年をとってもお互いに学び合いましょうということでしょ。その中で健全育成、家庭地域の教育力の向上を図るという文言が出てくるとなると、全然生涯学習の推進ではない。すぐわないと思うが。

○坪内委員

例えば地域で、子どもを見守ったり子どもの成長を見届けたり、そういうことを生きがいに行っている高齢者はたくさんいます。そういう人たちは、どんどん学習をして、今の子どもの実態を知ったり世の中の様子を知ったり、そういうふうな研修の場所は必要になってくる。そんな必要に迫られたところの学習機会を提供しているのではないのでしょうか。

○教育長

はじめの教育理念の目標の共生の部分、家庭・学校・地域の連携を深め、町民全体で子どもを見守り、健全に成長するよう支えあいます、子どもも大人も、互いに助け合ったり、他の人ために生きる気持ちや行動を学びあい、共に生きると、このあたりを本当は謳いこみたかった。

○町長

それはそれで良いのだが、ここにきてね学校と連携したり、連携は悪いことではないのだが、子どもの健全育成、家庭地域の教育力の向上という、それは何か大人が、突っ込んで

いく感じがする。生涯学習は大人になっても学ぶものであり、生涯学習という言葉から連想するものである。子どもたちを呼んで、副読本を利用して義農作兵衛を生涯学習の中で改めて、大人と一緒に学ぶということであれば良いと思う。家庭、地域の教育力の向上なんて言い出すと……。生涯学習は自分で学ぶもの、大人になっても年をとっても学びたいというのが生涯学習だと思う。

○池内委員

青少年育成協議会というのを、学びの場と捉えることはできませんか。

○町長

青少年育成協議会は、違いますよ。青少年育成協議会は、補導員さんが集まってやる会なんですよ、生涯学習という範疇ではないと思う。

○教育長

例えば、公民館や分館で三世代交流で年末にしめ縄づくりをしています、子どもや保護者、祖父母も一緒にきてやっている。子どもはお年寄りに教わる、若い世代に伝えて行く、そういうような事であれば良いんですか。学校教育も生涯教育の中の一環であると思いますが。

○町長

あまり難しくしてしまうとどうか、生涯学習という言葉を出したときに、住民の皆さんが何を考えるか、学校の教育とは限らない、学校を卒業して、60歳定年になって、何か歴史を勉強したいという人が学ぶのに何も無いわけでしょ、だから町民企画講座とか子どもたちを呼んで学ぶとか、これが生涯学習であると思うが……。教育力が家庭に突っ込んでしまうとどうなのか、もっと素直に、年をとっても勉強したいと、それが生涯学習であると思う。誰でも参加でき行ってみようかというようなものを考えてあげると、松前町は、住民のみなさんは死ぬまで勉強ですよと教育の町というのは小中学校だけではないですよと、年をとってもいつも学びましょうというのが教育の町の本来の目標であるから、70歳になろうと80歳になろうと勉強する機会があれば勉強してくださいと、それが健康に長生きする秘訣なんだと、その方が分かりやすいと思うが。

○渡部委員

青少年育成協議会は共生の分野での取りいれなんで、地域で子どもをかかえていこうと、町長が言われるように生涯学習と言われると、確かにあるんですが、さっき池内先生が言われたように、その場を利用して皆さんが習って、地域で支えあっていきましょうと……。そういうような事を込めたいという事があって、ここにこのような表現が入ってきた。教育力の向上と言われると、確かにちょっと無理があるのかなと気がせんでもないが、表題が生涯学習だけに、社会教育と謳えば無理がないのではないか。

○教育長

検討させてください。公民館が主語であれば、例えば地域でやっている文化祭に行ったときの年配の方々の作品が並べてある。また、写真や川柳、俳句まで展示してあり、こういう事が学びを増やしていく。

○町長

中教審で生涯学習部会をやっている。今、言ったことを大学の先生も言うわけですね、地

方では生涯学習は年をとっても皆が集まったりお稽古ごとみたいな、また、フラダンス教室なんかは立派な生涯学習ですよ、そういうのが良いと思う。気軽に集まってやるのが生涯学習と思うが。

○事務局長

予定の時間となりましたので、修正とまた検討事項もできましたので、それを踏まえて資料を作り直して、次の町長に引き継ぐという形にさせていただきます。

以上をもちまして平成27年度第1回松前町総合教育会議を終了いたします。